

# 地域1300世帯の防災基地 井戸、投光機配備も計画

災害時対応で地域貢献  
。日本コークス販売  
(本社・東京)の古茶重社  
長は、LPガス事業を行う  
上で営業所を置く地域との  
かかわりを重視し、顧客先

## ◆日本コークス販売・熊谷営業所

への訪問活動はもとよりさまざまな角度から活動を行っている。

建物の老朽化を機に移転・建て替えを行った熊谷営業所では、LPガスの災害対応力を生かした地域貢献を一つのテーマとした。

平成十九年十二月の移転時、LPガスの仕入先である東京ガスエネルギー(同、鷹蒼有宇寿社長)から国が行う「災害用バルク設置補助制度(LPガス安定供給対策事業)」の紹介を受け、

移転先の熊谷営業所(熊谷市太井)に設置することにした。

設置に当たっては地元の同意を得る必要があり、自治会へ設置の趣旨を説明したが「自治会長さんは好意的であり交渉に苦労はな

かった」と横井敬太所長。自治会長は「近くに、地域の防災基地を作るといい」と話したという。災害時には、熊谷市太井・久下の両地区の住民(約千三百世帯)を中心とした炊き出しを想定している。

無事に合意を取り付けて導入した設備は、災害用取り出しヘッド付き五百リットルのバルク貯槽(伊藤工機製)のほか、業務用三重巻き鍋物こんろ二台、二重巻き五台、五升炊き炊飯器三台。国は災害対応バルク設置を補助するに当たり、緊急時の使用に備えるため貯槽には一定のガス残量を保つ

の備えは、近く投光機と

発電機のユニットを購入す

とどまらず地域全体に災害対応機能をPRしていく考えだ。バルク設置後に掲げた営業所の看板には「地域の防災基地」のサブネームを添えた。

十二月には、防災基地の周知を目的の一つとしたガ

ス機器展示会を行う。四百

平方メートルの敷地全体を使って軽食用の模擬店や子供向け遊具を設け家族みんなに楽しんでもらう計画だ。

熊谷営業所では、〇七年十二月の移転後すぐに同様の展示会を開いている。周辺の自社供給先二千件ほか、都市ガス家庭を含む他社顧客三千件にも案内チラシを配ったところ、一日で合計五百四十人あまりの来場者を得た。今年も周辺住民に来場を呼びかける。

移転・新築先の熊谷市太井は、以前の場所(同市久下)から二百メートルしか離れていない。そのため、地元のお得意さんとの顔の見え関係は残っている。中には直接事務所にガス代を支払いに来る人もあり、新事務所になつてからもそれは続いている。「銀行引き落としの利用や共稼ぎ家庭の増加などで顧客と接する機会が減ってきている」と

横井所長。地域防災基地の基盤となる地域密着度をさらに深めるため、引き続きガス代の支払いに来て下さる方を受け入れるほか、集金器具点検サービスなど少しでも接点の機会を増やしていく考えだ。

日本コークス販売は、昭和二十四年の創立。製鉄、非鉄金属製錬など基幹産業全般を対象にコークスを販売する一方、同五十年から東京液化ガス(現東京ガスエネルギー)の特約店としてLPガスと関連機器の販売を手がけている。

LPガス事業所として、宇都宮市と熊谷市に営業所を、埼玉県秩父郡野町に出張所を持つ。熊谷営業所とはほぼ同時期に宇都宮営業所にも災害対応バルクを導入した。



地域密着度を深めたいと話す横井敬太所長



非常時の水源確保のため敷地内に井戸を掘る計画だ。12月には設置後初のガス展を行い災害対応機能を地域に紹介する



災害時には10力所あるガス栓からガスを取り出し炊き出し用機器に接続する



災害対応バルク設置に併せて地域防災拠点を掲げた